



2021 年度 JF 助成事業 『キルギスの日本研究』実施報告

紀要編集委員会 ジュヌシャリエワ・アセーリ（ビシケク国立大学上級講師）

◇昨年 2021 年、キルギス共和国日本語教師会は 8 月に開催した「日本語教育国際研究大会」を柱とする国際交流基金助成事業『キルギスの日本研究』の一環として日本語教育と日本学に関する「勉強会」を 3 回実施した。3 回とも新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインの形で行い、キルギスと日本の他、ロシア、ウズベキスタンの日本語教師と日本研究を専攻する大学院生や学部生が参加した。
 ◇第 1 回（6 月）は 10 日カイロ大学（当時）の森田誠亮先生が異文化理解能力について講演してください、第 2 回（10 月）は中国湖南師範大学の笈川幸司先生による講演で、作文の書き方と日本に対しての発信を進める内容だった。
 ◇そして、12 月 25 日の第 3 回勉強会は元国際交流基金日本語上級専門家の黒岩幸子先生が「読解のヒント」についてお話しくださった。

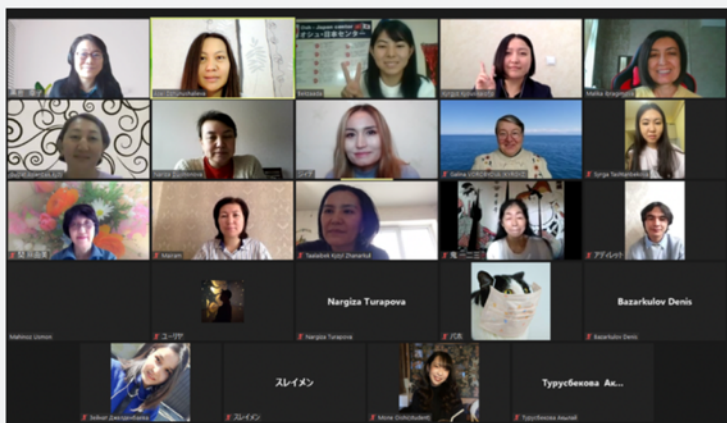
◇講師を務めてくださった先生お 3 方のお話は、いづれも具体的で専門的な内容なのに学部生にとっても分かりやすく構成されていて、現役の日本語教師からは教室ですぐに実践してみたいとなったという感想が多かった。

◇企画・運営に携わったものの一人として、この「勉強会」が参加者自身の研究を深めるきっかけとなればと願っている。また、日本語教師の皆さんが「勉強会」で得た知識とヒントをそれぞれ日頃の授業で実践してくれること期待したい。

◇
 なお、2021 年度『キルギスの日本研究』の取り組みと成果論文は、今月発行される日本語教師会紀要『キルギス日本語教育研究』第 6 号に掲載される。新しい 2022 年度も『キルギスの日本研究』は継続されることになっている。

「第3回オンライン勉強会」（2021年12月25日）

12月25日に国際交流基金日本語上級専門家としてキルギス日本人材開発センターやモスクワ市立教育大学で活躍された黒岩幸子（くるいわ・さちこ）先生に「読解のヒント」のテーマで講演していただきました。



キルギス共和国日本語教師会ホームページより

Главное - начать читать

Ибрагимова Малика

Узбекский государственный университет мировых языков

Кафедра теории и практики японского языка, Доцент

肝心なのは、読み始めること

イブラギモワ・マリカ

(ウズベク国立世界言語大学日本語理論実践学科准教授)



▼ Чтение является важным аспектом изучения японского языка. С чтением связаны расширение знаний, освоение иероглифов, грамматики, рост словарного запаса. Но чтение связано с рядом проблем. 1-я проблема - иероглифы. К сожалению, особенно на начальном уровне, студенты сталкиваются с проблемой незнания достаточного количества иероглифов. 2-я проблема связана с нашим временем, когда дети перестали читать на родном языке.

Чтобы решить 1-ю проблему, приходится на уроках использовать уже существующие учебные материалы, соответствующие уровню студентов или адаптировать тексты. Но для развития языка важно, чтобы студент сам читал во внеурочное время. Хотел читать. Но как сделать так, чтобы захотели читать те, кто и на родном то языке не читают?

▼ Интересным опытом для этого было мероприятие в муниципальной школе японского языка в г. Хигашикава Хоккайдо - 絵本を読む. Волонтеры из местного населения в группах 1 японец 2-3 наших студента показывали и читали детские книги с большим количеством рисунков. Хотя это были детские книги, они были красочные, с чудесными оформлением, по настоящему интересные. Хотелось каждую из них взять в руки и почитать. Ещё эти детские книжки учат не бояться языка, потому что их японский отличается от стандартных конструкций учебников. И показывают, что важно не слово в слово понимать прочитанное, а важно понять суть. Этому мы должны учить студентов на уроке. К сожалению, многие преподаватели сводят чтение к 精読, тогда как существуют такие методы, как スキミング - понимание общего смысла текста, スキャニング - получение ответов на интересующие вас вопросы, например, время вашего рейса.

▼ Студенты должны уметь не застревать на непонятных иероглифах, словах, грамматике. Мы ведь и на родном языке можем не всё понимать в тексте, это же нас не пугает. Для начала надо приучаться во внеурочное время понемногу, но регулярно читать японские тексты интересного содержания. Найти такие тексты может помочь преподаватель. Можно организовать на занятиях периодические обсуждения этих текстов в плане содержания, новых слов, иероглифов.

▼ 読解は日本語を学ぶ上で重要な要素です。テキストを読むことによって漢字、文法、語彙といった知識を増やすことができます。ただ、問題もあります。第一は初級レベルの学習者は知っている漢字が少なすぎる。第二は、今という時代を反映して子供が母語でさえ本を読まなくなったことです。第一の問題を解決するには、教材をレベルに合わせた使い方をしたり表現を工夫すれば可能です。読解力を伸ばすには授業時間以外にも読むこと、読みたいと思うものを読むことが大事です。でも、母語でさえ読むのを嫌がる学生にどうやって外国語で読みたいと思わせるのでしょうか。

▼ 北海道東川町の町立日本語学校に「絵本を読む」という活動があります。日本人ボランティアがカラフルで素晴らしい装丁の絵本を読み聞かせます。絵本の日本語は教科書の日本語とは違うので、学習者に言葉を怖がる必要はないこと、一字一句理解するのではなく、書かれていることの要点を理解することが重要である、と教えてくれます。これこそ教師がやらなければならないことなのですが、多くはほとんど精読しかやっていません。概要把握のためのスキミングや出発便の時刻とか、答えとなる知りたい情報を見つけるスキニングなど、読解メソッドがいくつもあるのに。

▼ 知らない漢字や言葉、文法に出会してもつまずいたりしないこと。書かれていることの全ては母語でも理解しきれないことがあるのですから怖がる必要はありません。授業以外にもコツコツと内容が面白い文章を日本語で読んで慣れること。教師は、テキストを探す手助けをすればいいのです。読んだものの内容や新出語彙や漢字について教室でディスカッションしてみるのもいいと思います。

「第3回オンライン勉強会」に参加して

===== 受講者の感想 =====

アスランベック・ウール・アディレット (オシユ国立教育大学附属オシユ日本センター 講師)

◆2021年12月25日(土)黒岩幸子先生によるオンライン勉強会に参加させていただきました。勉強会のテーマは「読解のためのヒント」でした。勉強会では、読解のテクニックや読解力アップの秘訣を教わりました。パワーポイントを使った説明で、写真や図も大変わかりやすく、特に日本語教師にとって、ぜひ参考にしたいと思う内容でした。質問にもわかりやすく答えていただき、とても良い勉強になりました。

◆黒岩先生のお話によりますと、「最初から一つ一つ丁寧に読まなくていいです。知らない言葉があっても、そこでSTOPではありません。たくさん読めば、読むことに慣れていく。分からない言葉は推測するか読み飛ばしてしまってもいいです。知っている言葉をつなぎ、テキスト全体を把握することが大事です」とのことでした。

◆日本語能力試験をまだ受けたことがない人でも、読解攻略のイメージができたと思います。黒岩先生、先生の勉強会に参加することができて、本当によかったです。ありがとうございます。今回教えていただいたことを教室で実践し、学生たちにも伝えたいと思っています。

◆勉強会の進行役を担当してくださったママーシェワ・ジィデグーリ先生にも心から感謝申し上げます。これからもどうかよろしくお願ひします。



ママーシェワ・ジィデグーリ (オシユ国立教育大学 講師)

◆「キルギスの方はよく聞き、よく話せますね。発音もきれい、でも読解はどうでしょう？」という先生の言葉から勉強会が始まった。発音の良さをネイティブの先生から聞いてとてもうれしくなった。しかし、確かにキルギスの日本語学習者は本当に読解が弱い。キルギスでは本を読む習慣があまりないからだと思う。

◆今回の勉強会を通じて何が分かったかというと、まずテキストの内容を理解することが大事だということだ。テキストの内容を理解するためには言葉をたくさん知ることが大事で、言葉というのは文字で表されるから、文字→言葉→テキストという風にまとまってくる。つまり、読解力の半分は語彙力で説明され、漢字の力も必要になってくるということがわかった。

◆また、漢字が分からなくても意味を推測して読み続けることが大切で、「だれが？何を？」が読解ではとても大事な要素であること、そして、読解では最初から最後まで丁寧に読む必要はなく、テキスト全体を把握することが大事であるということがわかった。

◆私も上級レベルの読解が苦手だが、勉強会に参加して、これからはもっと心して、語彙力と漢字力をもっと高めていこうと思うようになった。黒岩先生はキルギスでの仕事の経験もおありだからキルギスの学習者についてよくご存知で、そのため勉強会は説得力があった。

◆黒岩先生、どうもありがとうございました。今後ともどうかよろしくお願ひ致します。

ラスロワ・ベグザダ (オシユ国立教育大学附属オシユ日本センター 講師)



◆12月25日にオンラインで実施された「第3回オンライン勉強会」には、キルギスとウズベキスタンの日本語教師と日本語を学んでいる学生たちが参加しました。講師は黒岩幸子先生で、今回のテーマは「読解のためのヒント」でした。

◆黒岩先生は、文章を読むとき、そして生徒に教えるときは次のヒントを知るべきだと教えてくれました。一番目は「単語」です。二番目は「漢字」です。三番目は文法でした。特に「だれが？何を？」というところによく注意しなければいけません。

◆まず、読解力の半分は語彙力だということです。でも、単語の意味がわからなくても、漢字で書かれていたら、漢字から意味を推測することができるということも分かりました。そして、誰が行動を起こしているのかがわからないと、文章の内容がわからない。だから、教師はしっかり文法と助詞を教える必要があることも学びました。

◆オンライン勉強会の終わりに参加者が感謝の言葉と共に黒岩先生に質問をしました。その中でガリーナ先生が質問した「どうして日本語能力試験の読解では日本語力を確認する問題でなく論理的な問題が出されるのか」ということは私も興味があって、もっと詳しく知りたいと思いました。

◆黒岩先生、ありがとうございます。勉強会を準備してくれたキルギス共和国日本語教師会のみなさんにもお礼申し上げます。

🌸萩原幸子先生の卒寿を祝って🌸

先生のキルギス日本語教育への貢献を振り返る

ヴォロビヨワ・ガリーナ、PhD

◆1995年萩原幸子先生をお迎えしキルギス日本センター日本語コースが始まりましたが、先生は2022年6月27日に90歳になられます。先生の卒寿をお祝いし、日本センター日本語コースの第1期生として先生についてお話ししたいと思います。

◆萩原先生は日本外交協会 CIS 委員会の派遣でキルギスに赴任しました。日本語教師になる前は日本でテレビ監督を勤め、その後インドネシア、イタリア、アメリカで日本語を教えたあとキルギスにやってきました。



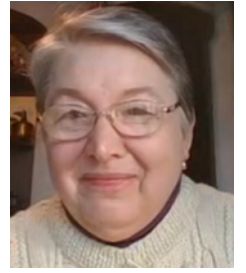
◆キルギス日本センターには様々な教材と素晴らしい教具があり、日本語教師も、学習者もとても恵まれていました。萩原先生の最初の授業で感じた印象は今でもよく思い出します。先生は日本語の挨拶の言葉を聞かせて、私たちに繰り返して言わせました。そのとき初めて日本語の発話を聞いて、その難しさを感じました。萩原先生はとても元気で、みんな活発に参加する授業で、私はそのような授業を始めて経験しました。

◆授業は週2回で、毎回「あいうえお」など平仮名の五十音表の1行と語例を覚えなければなりません。先生は語例の発音をテープに録音してくださいました。そのおかげでうちでもテープを聞きながら書き取り練習ができました。

◆萩原先生の片仮名の教え方の特徴は「アイウエオ」の順番ではなく、「キルギス、ビシケク、スポーツ」などという単語に含まれる文字の学習配列でした。先生は連想記憶法に基づいて平仮名と片仮名を覚えるようなカードを作成してくださいました。それは効果的で素晴らしい教材でした。特別な指導法を利用して先生は私たちに達成感を与えてくださいました。

◆萩原先生は授業のときだけではなく、授業以外も私達と一緒に過ごしました。博物館、デパート、カフェやバザールと一緒に行って日本語で話したり、街中を歩いたりしました。

◆また先生のお宅で日本のアニメーションと映画を見ました。それは「となりのトトロ」、「魔女の宅急便」、「火垂るの墓」、「シコふんじゃった」、「Shall we ダンス？」などでした。そのおかげで日本語の生会話を聞くことができ、日本の生活と接することができました。



◆先生は全力を尽くして教えてくださったので、私もそれに応じて困難に負けず一生懸命頑張らないと恥ずかしいと思いました。私が日本語を教えはじめたのは、日本語コースの4年生のころでした。萩原先生は私に帰国した浦部先生に代わって3ヶ月のビデオコースで初心者には日本語と日本文化を教えるよう勧めてくださいました。1998年10月から週1回の授業を担当しはじめて、教師の仕事の魅力と喜びを感じました。

◆4年間勉強して日本語コースの卒業の前に萩原先生は日本センターの専任講師になることを勧めてくださいました。それで、私はコンピューターの仕事をやめて50歳でキルギス日本センターの新米日本語教師になりました。萩原先生のご支援と教師用の手引きのおかげでだんだん教授法を習得しました。先生の授業を見学させていただいたり、指導していただいたりしていました。

◆萩原先生のキルギスの日本語教育への貢献は計り知れないです。先生の教え子は日本で勉強したり、現在日本で働いたり、キルギスでも日本語を利用して仕事をしたりしています。先生は日本センターで教えながら、他の教育機関の日本語教師の支援もしていました。1998年の最初のキルギス国内弁論大会もキルギス日本センターで実施しました。キルギス日本語教師会は萩原幸子先生やビシケク人文大学（現ビシケク国立大学）の三井勝男先生など日本人教師の努力のおかげで1999年にできました。

◆萩原先生が2000年に帰国された後も何回か日本でもお会いできました。萩原先生のおかげで私は日本語教師になって新しい道を開くことができ、先生に深く感謝しています。

◆萩原幸子先生のご長寿とご健康を祈っています。



第34回モスクワ国際日本語弁論大会報告

ママーシェワ・ジィデグーリ オシユ国立教育大学講師
(キルギス共和国日本語教師会オシユ支部支部長)

2021年12月18日モスクワ時間12時からオンラインで「第34回モスクワ国際日本語弁論大会」が行われ、CIS12カ国の代表者総勢18名が参加し、キルギスからはオシユ国立教育大学3年生のアブドゥモムン・クズ・アイダナが代表として出場した。テーマは「私は私」、アイダナにとって弁論大会出場は初めての経験だった。モスクワ国際日本語弁論大会にキルギスの南の地域から初めてキルギス代表に選ばれたことは誇らしく、大きな喜びを感じた。

アイダナは6番目に発表して、全体的には予想以上にいいスピーチができた。表情も豊かでスピーチ内容も比較的よかったと思う。キルギスの先生方も観て下さり、後でとても良かったと言ってもらえた。しかし、残念ながら入賞には届かなかった。正直に言えば、せめて6位にはなっていたほしいと願っていたのだが。

それでも、参加できたこと自体が素晴らしいことだ。指導教師としては悔しい気持ちもあったが同時に勉強になったし、何よりありがたい経験でもあった。

1位になったウズベキスタンの学生の「子供っぽい大人」というテーマでのスピーチは素晴らしかった。内容も深かったし、発表もよくできたと、質問にもよく答えられた。

比較してみると、アイダナのこれからの課題は質疑応答だということになる。質問にどうにか答えることはできたが、日本語力をもっと磨かなければならない。まだまだ力不足だが、4月には国内弁論大会もあるし、その後は中央アジア大会もある。アイダナの挑戦を期待している。(写真は筆者とアイダナ)



これからも実力アップを目指して勉強します

アブドゥモムン・クズ・アイダナ
オシユ国立教育大学3年



キルギス

«Я – это я»
「私は、私」

<https://www.youtube.com/watch?v=5WSu3by00AE>

Мен мындай жогорку деңгээлдеги спич конкурса биринчи жолу катыштым. Конкурс калыстар тарабынан чечилип, адилеттүү өттү деп ойлойм. Татыктуулары байгелүү орундарды алышты. Тилекке каршы мен эч канда орунду багындыра алган жокмун. Бирок, бул конкурстан мен чоң тажрыйба алдым.

Япон тилинин деңгээли канчалык экенин билдим. Мен муну менен токтоп калбайм. Дагы да көптөгөн конкурстарга катышам. Алдыда япон тилинин деңгээлин жогорулатып, спичте айтылган кыялдарымды ишке ашырам.

こんなに大きな大会に出たのは初めてでした。審査員が公平に審査してくれた結果、私は入賞することができませんでした。18人のうち6位までが入賞だったのに、とても残念で悔しく思いました。でも、この大会から私は本当にいい経験をする事ができたと思います。今の自分の日本語能力がどんなレベルであるかよくわかりました。

私はこの大会に出場しただけで全部終わってしまったとは考えていません。必ず次の弁論大会に出場したいと思っています。日本語をもっと勉強して、運用能力を高めていきたいです。モスクワでスピーチした通り、自分の目標を達成するまでこれからもがんばります！

キルギス共和国日本語教師会会報 第 64 号 (2022 年 4 月 4 日発行)

編集：キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》



キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com

賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com

会報バックナンバー https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik

KAJLT HP <http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

Facebook https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

**Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики
№ 64 от 04.04.2022 г.**